

# 山陽小野田市健康づくり推進協議会議事録

会議の種類	平成29年度第1回山陽小野田市健康づくり推進協議会		
日時	平成29年7月6日(木) 18:00~20:10		
場所	小野田保健センター		
出席者	小野田医師会	川端章弘 (会長)	
	厚狭郡医師会	中根比呂志 (委員)	
	厚狭歯科医師会	山崎哲朗 (委員)	
	山陽小野田市ふるさとづくり協議会	石川宜信 (委員)	
	山陽小野田市老人クラブ連合会	守田節子 (委員)	
	山陽小野田市連合女性会	井上幸子 (委員)	
	山陽小野田市母子保健推進協議会	吉田由美子 (委員)	
	山陽小野田市食生活改善推進協議会	半矢幸子 (委員)	
	山口県看護協会小野田支部	中嶋直美 (委員)	
	山口県栄養士会宇部地域専門部会	藤井紘美 (委員)	
	山陽小野田市社会福祉協議会	沖野浩 (委員)	
	一般公募	曾瀬護 (委員)	
	一般公募	福田順子 (委員)	
	(出席者数 13人)		
欠席者	小野田歯科医師会	平木雄三郎 (委員)	
	山陽小野田薬剤師会	松澤進 (委員)	
	山陽小野田市自治会連合会	平中政明 (副会長)	
	山陽小野田市小・中学校PTA連合会	政田修一 (委員)	
	山口宇部農業協同組合	相本まゆみ (委員)	
	山口県歯科衛生士会小野田支部	藤本文子 (委員)	
	(欠席者数 6人)		
オブザーバー	山口県宇部健康福祉センター	欠席	
事務局	健康福祉部長 河合久雄	健康増進課長	岩佐清彦
	健康増進課技監 河野静恵	母子保健係係長	大海弘美
	成人保健係係長 岡手優子	子育て世代包括支援センター主任	末永久美
	食育連携室室長 加藤諭香江		

		<p>1. 辞令交付</p> <p>2. 山陽小野田市長あいさつ（河合健康福祉部長代読）</p> <p>3. 委員、職員紹介</p> <p>4. 会長、副会長選出 賛成多数で、会長に川端委員、副会長に平中委員が選出された。</p> <p>5. 議事</p> <p>（1）平成29年度山陽小野田市保健事業概要について</p>	
事	務	局長	資料1（平成29年度山陽小野田市保健事業概要）の説明
議	委	員	意見、質問等ないか。
事	務	局長	地域健康教育の認知症予防の実績がないとのことだが、認知症予防は切実な問題と考えるがどうか。
事	務	局長	高齢福祉課で行っている。
委	員	員	高齢福祉課が担当であってもここでデータをあげてもらえないか。
事	務	局長	来年度以降、数字をお示しする。
事	務	局長	テレビでがん検診の仕様書確認を十分行っている自治体が全国で50%と聞いたが、これはどういうことか。当市はどうなのか。
事	務	局長	がん検診について国の示す手順や方法など内容を仕様書に明記し、検診実施機関と契約時に交わす確認のこと。
			当市は、検診車での集団検診については、入札時に明記し確認しているが、医療機関での個別検診については、両医師会に国の指針について説明はしている。文章として明記されたものはない。昨年度行われた国の調査では、市は、確認していない。と回答をしている。
議	長	長	結核検診の実績が減っているが、胃がん検診が2年に1度になったことの影響があるのではないか。
事	務	局長	確かに影響はあると思う。市としては、昨年胃がん検診を受診した人に対してハガキを送付し、胃がん検診は対象ではないが、その他のがん検診は受診可能と周知も行ったが、結果として実績は下がった。
議	長	長	1次救急で、急患診療所の薬の在庫を30万円くらい廃棄したと聞いたが、事実か。薬剤の使用期限などチェック体制をきちんと決めてほしい。
事	務	局長	事実です。現在は、使用期限等しっかり把握している。使用の少ない薬剤については会議で医師や薬剤師に確認している。
議	長	長	市民病院で使用することはできないのか。
事	務	局長	使用の少ない薬剤については、少ない単位で購入できるよう市民病院と連携している。
委	員	員	休日イベントを開催して救急車を要請することがあったが、30分以上待つて宇部まで20分かけて搬送された。内科・外科の当番はあるようだが、不安がつるのがどうか。

事務局	<p>1次救急医療、2次救急医療がある。2次救急は、当市だけでは対応できないので、近隣3市9病院で輪番制を組んでいる。この体制については、消防も含めて協議している。</p>
委員	<p>1次救急は、今年度から山陽と小野田を分けず、山陽小野田市で外科と内科の休日対応をしている。</p> <p>2次救急は、市内に対応できる病院が3病院しかないため、医師の労働範囲を超えるのが現状。やむを得ないところもある。</p>
事務局	<p>百歳体操をしているとの住民がいるが、どういったものか。</p> <p>高齢福祉課が行っている事業で、窓口は、地域包括支援センターとなっている。健康増進課としては、SOS おきよう体操を啓発している。</p>
事務局	<p>(2) 健康づくり計画・食育推進計画について</p> <p>資料2 (SOS 健康づくり計画概要版) 資料3 (山陽小野田市食育推進計画概要版) の説明</p>
議長	<p>意見、質問等ないか。</p>
委員	<p>食育はとても大切なことだと思う。大変すばらしい取り組みをしている。最近では、料理をつくるお母さんが少なくなった。とか、出来たものを買ってきて食べさせる。と言うことをよく聞く。共働きの保護者が増えているので、とても重要な問題と考える。いかに若いお母さんたちに啓発するかが大事ではないか。よい対応策はないのか。</p>
委員	<p>食は女性だけがするものではない。男性の意識を変えることも大事ではないか。</p>
委員	<p>食育推進地域連絡会に委員として出席しているが、会議には、保育園、学校教育課、高校からも出席され、多方面から食育について検討されており、連携を図りながら食育が広がっていると思う。ただ、家庭の事情で困難な現状もあるのではないか。</p>
議長	<p>事務局も含め、共働きで、お母さんが17:00過ぎても仕事で帰れない環境も問題ではないか。</p>
事務局	<p>核家族化が進む中で、本来、家庭の中で受け継がれてきた食育を家庭だけに求めるのは困難な時代と受け止めている。家庭、園や学校、地域、行政が連携を図り地域全体で食を考え、支えていく仕組みづくり必要だと考えている。</p> <p>また、食育博士養成講座では、小学生以上を対象としているが、小学生については、親子参加を条件としている。平成23年度当初は、男性の参加はほとんどなかったが、最近では、お父さんの参加も増え、今年度も両親と子どもの家族での参加も複数ある。</p> <p>来年度以降、子育て総合支援センターにキッズキッチン、学校給食センター内に調理実習室を設置予定であるが、子どもだけでなく、保護者を巻き込み、食課題解決に向け、皆様のご協力を得ながら市全体で食育事業を検討していきたい。</p>

事務局	局長	(3) がん検診受診率向上について 資料1 (平成29年度山陽小野田市保健事業概要26・27ページ)の説明
議事	局長	受診率の算出方法はどういうことか。
事務局	局長	がん検診対象年齢の人口から就業者数(他で検診の機会があると思われる者)を引き、農林水産業従事者数(就業者のうち他で検診の機会がないと思われる者)を足したものである。
議事	局長	国は、対象年齢すべての受診率の数値目標を50%とかかっているが、国と違い市は検診の機会のない方が対象である。検診の機会があるかどうか正確に把握できないのが現状。
事務局	局長	今後の市の数値目標はどうか。
議事	局長	市民の26%が国民健康保険なので、その50%と考え、先ず市の受診率の目標として13%を目指したい。
事務局	局長	検診を受診した人には、特典をつける。受診していない人には、ペナルティをつけてはどうか。
議事	局長	ペナルティをつけることは難しいが、県が健康づくりのポイントを集めると協力店で特典があるという健康マイレージという事業を行っており、参加している市もある。当市もその実施を第1歩として進めていきたいと考えている。
委員	委員	また、過去の受診者に電話で受診勧奨している。
議事	局長	がん検診のチラシを見たが、がん検診に行かないといけない。という気持ちにならなかった。むしろ、書いてある内容を読んで、自分が対象なのか。受診できるのか不安に思った。
委員	局長	がんの実情などデータをちらしに盛り込んではどうか。
事務局	局長	がん検診の対象者にハガキで通知しないのか。
議事	局長	個人通知はしていない。市国保の特定健康診査の受診券発送時にチラシを同封している。
委員	局長	企業で働いている人は検診の機会があるといっても肺がん検診しかないところの方が多いのではないか。
事務局	局長	地区巡回の肺がん検診の受診者は多いのか。
委員	局長	具体的な数字は持ち合わせていないが、100人くらい(多いときで1日当たり)受診している。
事務局	局長	J Aと協力して農業の人が検診を受診しやすい工夫してはどうか。また、巡回検診の地区の見直しを行ってはどうか。
議事	局長	これまで同様、巡回場所など検討していきたい。
事務局	局長	商工会議所と協議をしてはどうか。
委員	局長	山陽、小野田の両会議所の代表も含めた職域連携会議を行って検討している。
議事	局長	死因の上位となっている心疾患、脳血管疾患、肺炎の対策が施策の中で欠落していないか。
委員	局長	原因は生活習慣病なので、生活習慣病予防が大切ではないか。

事務局	保健師、管理栄養士による健康教室を行っているが、要望があれば出向くこともできる。
委員	予算のこともあるだろうが、スタッフが不足しているのではないか。適切な人員配置が必要ではないか。
事務局	専門職の人員配置については、健康増進課だけでなく、部として捉えている。できる限りの増員を考え、高齢福祉課等も充実を図っていきたい。
	(4) その他 特になし。
	6 その他 次回会議の予定については改めて事務局から連絡する。